

第2回上野地区まちづくりビジョン推進会議(令和4年1月20日書面開催)における主な意見と対応

議事番号	議事項目	主なご意見等	対応(事務局回答)
(3)	まちづくり推進部会における検討状況について	「杜」と「まち」のエリアの活性化に関心のある方は大勢いると思う。(仮称)ワーキンググループ等の若手に主体的に関わってもらう取組みも、いずれは外部の方も含めて意欲のある方々が積極的に関わられるよう輪を広げていくことを意識してほしい。	(仮称)ワーキンググループで議論・検討した取組みが広がり、上野のまちの魅力向上に繋がっていくことが非常に重要であると考えています。取組みの輪をどのように広げていくかについても、(仮称)ワーキンググループや実際に取組みに関わるプレイヤーで議論・検討を深め、まち全体が協力して、取組みを支援していくようになれば良いと考えています。
		理念の検討ばかりに時間をかけるのではなく、並行して具体的な取組みを時間重視で早く動かしてほしい。とりあえずチャレンジしてみるくらいの気持ちで良いので面白いと思った取組みはいつでも始めたら良い。	資料3(P7)に記載のとおり、まちづくり推進部会や(仮称)ワーキンググループでの議論・検討の中で抽出される、具体的な取組みのアイデアについて、「できるところから取組む」をテーマに、まずは実証実験を行うなど、早期に具体的な取組みに着手し、試行内容を検証しながら実績を積み上げていきたいと考えています。
		「杜」と「まち」をつなぐためには、駅東側のまちづくりが重要だと考えますが、まち(駅東側)はどのようなコンセプトでまちづくりを進めることをお考えでしょうか。	駅東側は、ビジョン(P20)に掲げる「みんなの広小路」をコンセプトに、「杜まち」の人々みんなで共有し活用する都市空間と都市機能の導入を図ります。また、ビジョン(P23)に、短期の取組みの具体例として、駅周辺における多様で質の高い持続可能な都市機能の導入(東上野4丁目等)を示しています。
(4)	基盤整備推進部会における検討状況について	上野地区まちづくりビジョンでは、将来像として「杜」と「まち」を重ねつなげることを掲げていますが、つなげるエリアの中長期的な基盤整備イメージはありますか。	「杜」と「まち」を重ね、つなげる「杜まち」エリアでは、「杜まち」の人々みんなで共有し活用する都市空間と都市機能の導入を図るイメージです。都市空間については、ひと中心の空間活用と歩行者ネットワーク強化による回遊性向上や、日本の玄関口となる交通結節点として、国際都市の顔に相応しいおもてなし空間の創出に向けて、基盤整備推進部会で検討を進めていきます。都市機能については、「杜」と「まち」をわかりやすくつなぐ上野の歴史を活かした都市機能や、双方の相乗効果を生み出す都市機能の導入について両部会でも検討を進めていきます。
(5)	今後の進め方について	資料5の検討テーマとして「ウォークアブルまちづくり推進の短期施策の推進」が掲げられています。ウォークアブルまちづくりに関しては、昨今上野地区で実現が目標されている「ほこみち制度」も、まさにそれを目標にしたものですので、現在区で推進を目指すエリアにとどまらず、それらの動きとの連動も視野に入れた表現のほうが良いように思います。その部分、「ウォークアブルまちづくりを目指す国の制度や民間の動きと連携した短期的施策の推進」としてはいかがでしょうか？	上野の各地区で検討等が行われている「ほこみち制度」については、地区により立地や課題等の特性が異なることから、当面は、各地区の主体となる皆様と台東区とで個別に議論や検討を進めていきたいと考えています。よって、検討テーマ「ウォークアブルまちづくり推進の短期施策の推進」について、表現はこのまま変更なしとしますが、具体的な議論や検討に際しては、国の制度や民間の動きとも連携し進めていきたいと思えます。
		駅周辺の既成市街地も含め、より具体的な将来像を検討してほしい。エリア内には老朽化した建築物も多く見られるため、個別の建替え等が先行することで、将来像の実現に支障が生じないよう、早期に検討を深度化し戦略的に取り組んでほしい。例えば、3～5年くらいの短期の目標と、それに向けた22年度の短期的な検討事項を共有できないか。	駅周辺の既成市街地も含めた具体的な将来像については、両専門部会での議論・検討を踏まえ、具体化していきたいと考えています。また、個別の建替え等が先行することで、将来像の実現に際し支障が生じないよう、導入する都市機能などの議論・検討を早期に進めていきたいと思えます。22年度においては、資料5の両専門部会の検討テーマの議論・検討をはじめ、短期の目標について早期に設定できるよう進めていきます。
		駅周辺の基盤整備や開発のほか、谷中地区など特徴的な景観や歴史・文化資源を有するエリアとの連携等についても検討してほしい。	ビジョン(P7)に記載のとおり、上野地区のまちづくりを推進する上で、谷中地区をはじめとした周辺エリアとの連携は不可欠であり、頂戴したご意見も踏まえ検討を進めたいと思えます。
(6)	自由意見	「杜」と「まち」のエリアの回遊や交流を促進するためには、互いの取組みや情報の連携、歩行者の快適な移動の実現が重要だと思う。ウォークアブルにする為のインフラ整備は一定の時間を要するだろうが、例えばニーズや嗜好に応じた来訪者への情報提供、円滑な移動支援、移動時の快適性付与(飽きずに移動できる等)などは比較的短時間で取組みを始められないか。実現しつつあるデジタルツールも活用したら良いと思うし、フィールドを提供して公募し、関心のある企業にアイデアを考えていただくのも検討の価値があると思う。	資料3(P6)に記載のまちづくり推進部会における検討テーマ「アクティビティをトータルでマネジメントする機能-アクティビティ相互の連携、回遊性の向上、情報発信、相乗効果の創出-」について、早期の取組みの実施に向けた検討を進めていきます。また、まちづくり推進部会や(仮称)ワーキンググループでは、公民連携の視点も視野にいれて、議論・検討を進めていきます。
		資料全体に関わることでありますが、今般の感染症拡大とそれに伴った都市的なもの(密集性・流動性・多様性)に対する忌避の傾向を踏まえ、いわゆる「コロナ後の上野」をどうするのか、という視点での議論を加えていくべき時期なのではないかと思えます。どちらかと言えば、まち部会に関わることでと思いますが、積極的なアジェンダ設定を期待します。	今般の感染症拡大の影響による社会情勢や人々の意識の変化に伴い、まちづくりにおいても「作り方」だけでなく「使い方」の視点をより強く意識した検討が必要であると認識しています。頂戴したご意見も踏まえ、資料5の両専門部会の検討テーマの検討や議論を進めていきます。
		地元としては、東上野地区におけるまちづくりの進捗も気になる場所であり、着実に検討を進め、地元にも進捗状況を情報提供してほしい。	東上野地区については、現在、まちづくり事業の実施に向けた調整を進めており、その進捗状況につきましては、地域の皆様に対し適宜情報共有してまいります。